

平成 26 年度
茨城大学大学院履修案内

(平成 26 年度入学者用)

農 学 研 究 科

※ 開講時期欄のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは、今年度は

第Ⅰ期	………	前学期前半	< 4 / 1 1 (金) ~ 6 / 1 0 (火) >
第Ⅱ期	………	前学期後半	< 6 / 1 1 (水) ~ 8 / 6 (水) >
第Ⅲ期	………	後学期前半	< 1 0 / 1 (水) ~ 1 2 / 2 (火) >
第Ⅳ期	………	後学期後半	< 1 2 / 1 (月) ~ 2 / 1 0 (火) >

となります。

※ 曜日のあとの数字は講時を表します。

1 講時	:	8 : 5 0	~	1 0 : 2 0
2 講時	:	1 0 : 3 0	~	1 2 : 0 0
3 講時	:	1 3 : 0 0	~	1 4 : 3 0
4 講時	:	1 4 : 4 0	~	1 6 : 1 0
5 講時	:	1 6 : 2 0	~	1 7 : 5 0

《 参 考 》

茨城大学ホームページ

<http://www.ibaraki.ac.jp/index.php>

農学部ホームページ

<http://www.agr.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学教務情報 Web 連絡掲示板 (学外から休講情報等を参照できます)

<http://gbbs.admb.ibaraki.ac.jp/index-student.php>

茨城大学シラバスシステム

(学内専用) <https://i-student.ibaraki.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

(学外専用) <http://i-student.ibaraki.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

茨城大学統合 e-ラーニングシステム RENANDI

<https://renandi.ipc.ibaraki.ac.jp/renandi/>

茨城大学大学院農学研究科ダブルディグリープログラム/地域サステナビリティの実践
農学教育プログラムホームページ

<http://ddp.agr.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムホームページ

<http://www.grad.ibaraki.ac.jp/gpss/>

茨城大学 学術情報局 IT 基盤センター

<http://www.ipc.ibaraki.ac.jp/>

目 次

茨城大学大学院農学研究科（修士課程）の教育方針	iii
平成26年度 茨城大学大学院学年暦	iv
1. 大学院農学研究科修士課程の教育研究組織	1
2. カリキュラムの構成	2
3. 成績評価基準	3
4. カリキュラム修了の要件	4
5. 授業科目	5
6. 特別研究計画書及び特別研究経過報告書の提出、 審査論文の提出及び最終試験要項	10
7. 教育職員免許について	11
8. 地域サステナビリティの実践農学教育プログラム履修要項	12
9. サステナビリティ学教育プログラム履修要項	14
10. ダブルディグリープログラム履修要項	16
11. 平成26年度 茨城大学大学院農学研究科時間割	19
12. 茨城大学大学院農学研究科規則	27
13. 学生生活	34
14. 阿見キャンパス配置図	38
15. 茨城大学農学研究科オフィスアワー（平成26年度）	39
様式集	
①指導教員届	41
②特別研究計画書	42
③履修計画一覧表	43
④特別研究経過報告書	45
⑤指導教員変更届	46
⑥論文審査願	47
⑦論文題目変更願	48
⑧地域サステナビリティの実践農学教育プログラム履修届	49
⑨サステナビリティ学教育プログラム履修届	50
⑩ダブルディグリープログラム履修願	51

茨城大学大学院農学研究科（修士課程）の教育方針

教育目的

農学研究科修士課程では、21世紀に求められる環境と調和した人類の持続的発展のために、農学を基盤とした食料・生命・環境に関する幅広い基礎知識と専攻分野における高度な専門知識・技術及び研究開発能力を備え、地域・国際社会で自立的に問題解決ができる力を持った人材の養成を目的としています。

アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

農学研究科修士課程では、農学あるいは関連する分野における基礎学力を有し、明確な目的意識と旺盛な探求心を持って食料・生命・環境に係わる専門知識・技術の学習と研究を進めようとする意欲を持った学生を求めています。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

農学研究科修士課程では、学士課程での教育によって得た成果を発展させ、農学研究に関する幅広い基礎・専門知識、研究手法、科学英語使用能力等を身につけさせるとともに、それらを活用できる広い視野と応用力を持った人材を育てるという観点から、分野横断的に学修するカリキュラムを編成・実施している。更に研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理観を持ち、自ら課題を発見し解決する能力を有する高度技術者、研究者を育てるという観点から、各専攻は分野の特性を踏まえた課題研究、ゼミナール、演習、実験等の実践的な教育を取り入れたカリキュラムを実施している。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）*

農学研究科修士課程では、農学を基盤とした食料・生命・環境に関する分野で高度専門職業人として活躍するのに必要な基礎・専門知識、技術・研究手法、問題解決能力等を身につけるという教育目標に照らして、専攻科目等の修得及び研究成果が基準を満たすことを判定するために、以下の通り修了（学位取得）要件を定めている。

- 2年以上在学して研究指導を受けること。なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して修士課程を修了することができる。
- カリキュラムポリシーに沿って設定した修士課程プログラムが定める授業科目を履修して、基準となる単位数（30単位）以上を修得すること。
- 修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

*ディプロマポリシーとは、学位授与の方針であり、卒業（修了）までの学びのロードマップと位置づけられている。

平成26年度 茨城大学大学院農学研究科学年曆

I <前学期・前半> 4/11 (金) ~6/10 (火)

	日	月	火	水	木	金	土	事項
4月			1	2	3	4	5	4/1 学年開始
	6	7	8	9	10	11 ①	12	4/8 入学式 (午前) 4/8 新入生ガイダンス (午後)
	13	14 ①	15 ①	16 ①	17 ①	18 ②	19	4/8 定期健康診断 (終日)
	20	21 ②	22 ②	23 ②	24 ②	25 ③	26	4/9 定期健康診断 (午前)
	27	28 ③	29	30 ③				
5月					1 ③	2 火③	3	5/2 振替火曜日
	4	5	6	7 ④	8 ④	9 ④	10	
	11	12 ④	13 ④	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17	
	18	19 ⑤	20 ⑤	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24	
	25	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31	5/31 創立記念日
6月	1	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7	
	8	9 ⑧	10 ⑧					

II <前学期・後半> 6/11 (水) ~8/6 (水)

	日	月	火	水	木	金	土	事項
6月				11 ①	12 ①	13 ①	14	
	15	16 ①	17 ①	18 ②	19 ②	20 ②	21	
	22	23 ②	24 ②	25 ③	26 ③	27 ③	28	
	29	30 ③						
7月			1 ③	2 ④	3 ④	4 ④	5	*7/2 I <成績報告期限>
	6	7 ④	8 ④	9 ⑤	10 ⑤	11 ⑤	12	*7/10 I <成績確認可能日>
	13	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑥	17 ⑥	18 ⑥	19	
	20	21	22 ⑥	23 月⑥	24 ⑦	25 ⑦	26	7/23 振替月曜日
	27	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31 ⑧			
8月						1 ⑧	2	
	3	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7	8	9	8/7~8/8 補講 8/9~9/30 夏季休業
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	*8/12 9月修了者成績報告期限 *8/18 9月修了者成績確認可能日
	24	25	26	27	28	29	30	*8/29 II <成績報告期限>
	31							
9月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	*9/10 II <成績確認可能日>
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					

平成26年度 茨城大学大学院農学研究科学年曆

Ⅲ<後学期・前半> 10/1(水)~12/2(火)

	日	月	火	水	木	金	土	事項
10月				1 ①	2 ①	3 ①	4	10/1 後学期授業開始
	5	6 ①	7 ①	8 ②	9 ②	10 ②	11	
	12	13	14 ②	15 ③	16 月②	17 ③	18	10/16 振替月曜日
	19	20 ③	21 ③	22 ④	23 ③	24 ④	25	
	26	27 ④	28 ④	29 ⑤	30 ④	31		10/31 鍬耕祭準備(休講)
11月							1	11/1、2 鍬耕祭
	2	3	4 ⑤	5 月⑤	6 ⑤	7 ⑤	8	11/5 振替月曜日
	9	10 ⑥	11 ⑥	12 ⑥	13 ⑥	14 ⑥	15	
	16	17 ⑦	18 ⑦	19 ⑦	20 ⑦	21 ⑦	22	
	23	24	25 月⑧	26 ⑧	27 ⑧	28 ⑧	29	11/25 振替月曜日
	30							
12月	1		2 ⑧					(12/1 IV後学期・後半)

Ⅳ<後学期・後半> 12/1(月)~2/10(火)

	日	月	火	水	木	金	土	事項
12月		1 ①	2	3 ①	4 ①	5 ①	6	(12/2 IV後学期・前半)
	7	8 ②	9 ①	10 ②	11 ②	12 ②	13	
	14	15 ③	16 ②	17 ③	18 ③	19 ③	20	*12/19 Ⅲ<成績報告期限>
	21	22 ④	23	24 金④	25	26	27	12/24 振替金曜日 12/25~1/5 冬季休業
	28	29	30	31				
1月					1	2	3	
	4	5	6 ③	7 ④	8 ④	9 ⑤	10	*1/8 Ⅲ<成績確認可能日>
	11	12	13 ④	14 ⑤	15 ⑤	16	17	1/16 センタ試験準備(臨時休講) 1/17、18 センタ試験
	18	19 ⑤	20 ⑤	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24	
	25	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31	
2月	1	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7	
	8	9 ⑧	10 ⑧	11	12	13	14	2/12~2/16 補講
	15	16	17	18	19	20	21	*2/18 3月修了者成績報告期限 2/24~3/31 春季休業
	22	23	24	25	26	27	28	*2/23 3月修了者成績確認可能日 *2/27 IV<成績報告期限>
3月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	*3/10 IV<成績確認可能日>
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	3/24 卒業式
	29	30	31					3/31 学年終了

【memo】

A large rectangular area with rounded corners, containing horizontal lines for writing, serving as a memo space.

1. 大学院農学研究科修士課程の教育研究組織

専攻	専門分野	教育研究分野
生物生産科学	植物生産科学 動物生産科学	作物栽培学 作物機能形態学 園芸作物開発学 施設園芸学 植物生体防御学 環境動物昆虫学 植物資源制御学 農業生産技術学 動物遺伝資源学 動物機能形態学 飼料資源科学 動物栄養生理学 動物保健衛生学 応用動物行動学 家畜生産物科学 農業安全管理学
資源生物科学	応用生命科学 農業化学生態学	分子生物化学 分子遺伝学 分子微生物工学 植物育種・細胞工学 動物細胞工学 食品生化学 食品分子機能学 遺伝子工学 食品機能工学（連携分野） 植物化学分類学（連携分野） 環境土壌・肥料学 生物制御化学 微生物生態学 化学生態学 熱帯環境化学 環境毒性化学
地域環境科学	地域環境工学 緑環境システム科学	農地環境工学 水環境再生工学 物質動態工学 地域資源計画学 農業生産システム工学 農業安全管理学 生命系経済学 地域経営科学 地域計画学 国際農業開発学 農業メテオシステム学 農業情報学 農環境システム学

2. カリキュラムの構成

茨城大学大学院は、知識基盤社会の構築を担う高度専門職業人養成と知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材の育成をめざしています。そのために、専門分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得するとともに、幅広い学識と専門分野に関連する基礎的素養を培うことを目標としています。これらの目標を実現するため、大学院授業科目は次のような授業科目で構成されています。

- (1) 大学院共通科目
- (2) 農学基礎科目
- (3) 専攻科目
- (4) 特別研究
- (5) 特別演習およびプレゼンテーション演習

(1) 大学院共通科目 (Graduate School Common Subjects)

幅広い学識と俯瞰的視野及び職業的素養などを涵養するための授業科目です。

(2) 農学基礎科目 (Overview of Agricultural Science and Biotechnology)

農学研究科が開講する科目で、専門に近い領域で基盤的な学識や素養を涵養するため、全専攻の大学院学生により広い視点からのレビューを提供し、異なった教育研究分野を専攻する学生に対しては、分野の基本的理解に導くような講義を提供します。

(3) 専攻科目 (Advanced Course in the Modern Agricultural Science and Biotechnology)

3つの専攻内の各教育研究分野に関する専門知識と技術を体系的に講義する授業科目です。

(4) 特別研究 (Research)

特別研究は、大学院学生に具体的な研究テーマを提供して、研究の進め方、実験データの解釈と問題点の抽出、更なる実験計画の立て方等の修得をめざしたものです。

【単位数、開講形態】

10単位、大学院学生が所属する教育研究分野の教員が主指導教員になります。また、関連する教育研究分野の教員2名が副指導教員として、研究テーマに関する議論等で協力、支援を行います。

(5) 特別演習 (Seminar) およびプレゼンテーション演習 (Presentation Seminar)

特別演習では、各教育研究分野に関する詳細な知識と技術を獲得させるために少人数によるセミナー形式の演習を行います。また、プレゼンテーション演習では、特別研究の成果を学会および修士論文発表会等で公表するプロセスを通して、プレゼンテーション技術の向上を図るものです。

【単位数、開講形態】

特別演習は3単位、プレゼンテーション演習は1単位、大学院学生が所属する教育研究分野の教員が担当します。

3. 成績評価基準

(1) 授業科目

評点基準

区分	評点基準	評価の内容
A ⁺	90点以上～100点以下	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上～90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上～80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上～70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

- ・評価はC以上が合格で単位が与えられます。Dは不合格で単位は与えられません。
- ・一度修得した単位（成績）は取消すことはできません。
- ・成績評価を受けるには授業に2/3以上の出席が必要です。
- ・シラバスに記載されている達成目標（ねらい）に基づいて、シラバスに記載の成績評価方法（テスト、レポート、発表など）で担当教員が評価します。

(2) 特別研究、特別演習、プレゼンテーション演習

履修案内およびシラバスに記載された達成目標（ねらい）に基づいて、それぞれの達成度を上記評点基準により担当教員が評価します。

特別研究

達成目標（ねらい）：特別研究は、大学院生に具体的な研究テーマを提供して、研究の進め方、実験データの解釈と問題点の抽出、更なる実験計画の立て方等の修得をめざしたものです。さらに、特別研究の内容を修士論文として作成する方法の修得をめざします。

特別演習およびプレゼンテーション演習

達成目標（ねらい）：特別演習では、各教育研究分野に関する詳細な知識と技術を獲得させるために少人数によるセミナー形式の演習を行ないます。また、プレゼンテーション演習では、特別研究の成果を学会および修士論文発表会等で公表するプロセスを通して、プレゼンテーション技術の向上を図るものです。

(3) 修士論文審査基準

「審査基準」

- ① 研究課題の目的、方法及び結果を正しく理解し、考察がなされ、論文が理論的に記述されていること。
- ② 研究目的の達成に向けて、十分な努力がなされ、科学的に正しい方法で研究が遂行されていること。

「審査方法」

本学学位規則に基づき、設置された審査委員会（主指導教員を主査、副指導教員2名を副査とする）において提出された修士論文についての審査と最終試験を行ない、評価（可否）します。審査委員会は提出された修士論文について（1）目的、方法、結果を十分理解しているか、（2）理論的に考察がなされているか、（3）得られた成果の科学的到達度は高いか、（4）研究に将来性、独創性が認められるか、（5）修士論文の構成、記述、

書式が適切であるか等を審査します。

また、公開の修士論文発表会を開催し、論文を中心とした最終試験を行いません。各専攻は審査会の評価の確認を行いません。

「研究指導」

- ① 主指導教員は、特別研究の開始に当って研究題目と研究計画について学生と十分な議論を行ない、さらに副指導教員とも十分な議論を行ない、学生の特別研究計画書作成を指導します。
- ② 主指導教員は、学生に研究指導の方法及び1年間の研究指導計画を説明し、理解させます。
- ③ 主指導教員は、研究指導計画書に沿って研究が進められるように、適切な研究指導を行いません。
- ④ 副指導教員は、特別研究の進捗状況を把握し、主指導教員と連携して適切な指導を行いません。

(4) 修了認定基準

カリキュラム修了の要件（農学研究科規則第14条）を満たすことです。在学年数（2年以上または優れた業績を上げた者は1年以上）および修得単位数（30単位以上）を満たし、学位論文審査および最終試験に合格することです。単位の修得にあたっては上記（1）授業科目、（2）特別研究、特別演習、プレゼンテーション演習に共通の【成績評価基準】を適用し、学位論文審査と最終試験は【修士論文審査基準】を適用します。

4. カリキュラム修了の要件

修了の要件は、研究科に2年以上在学し、研究科所定の科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することです。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた学生については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとします。（農学研究科規則第14条）

研究科所定の科目	必要な修得単位数
1) 大学院共通科目※ ₁	2 以上
2) 農学基礎科目※ ₂	4 以上
3) 専攻科目	10 以上※ ₃ (ただし、所属専門分野の科目から4単位以上)
4) (所属専攻の)特別研究	10
5) (所属専門分野の)特別演習	3
6) (所属専攻の)プレゼンテーション演習	1
合計	30以上

※1 大学院共通科目のうち2単位を超えた分を専攻科目に充てることはできません。

※2 農学基礎科目のうち、4単位を超えた分を専攻科目に充てることはできません。

※3 他の研究科及び他の大学院で履修した授業科目の単位を10単位を限度に専攻科目の授業科目に充てることができます。（ただし、所属専門分野の科目から4単位以上修得すること。）他の研究科及び他の大学院の授業科目の履修を希望する学生は学務係で事前申告の手続きをしてください。

5. 授業科目
(1) 大学院共通科目

★非常勤講師

No.	授業科目名	担当教員	単位	開講時期	曜日講時	社会人向	教職 対応
						曜日講時	
MK100	学術英会話	未定	2	前期	水 1	— —	—
MK101	持続社会システム論Ⅱ	田村誠、蓮井誠一郎	1	前期	金 2	— —	—
MK102	人間システム基礎論Ⅰ	小原規宏、伊藤哲司	1	後期	水 1	— —	—
MK200	学術情報リテラシー	小野寺淳	1	前期	夏季集中	— —	—
MK201	研究と教育	橋浦洋志、他	2	後期	水 5	— —	—
MK202	人間システム基礎論Ⅱ	上地勝、賀来健輔、関友昨	1	前期	月 4	— —	—
MK300	科学と倫理	★曾良達生	2	前期	夏季集中	— —	—
MK301	地球環境システム論Ⅱ	山村靖夫、天野一男	1	後期	金 2	— —	—
MK400	地球環境システム論Ⅰ	三村信男、北和之	1	前期	月 1	— —	—
MK401	国際コミュニケーション基礎	★中野武重	2	前期	月 2	— —	—
MK402	実践国際コミュニケーション	★中野武重	2	前期	水 2	— —	—
MK403	先端科学トピックスA	未定（工学部教員）	1	前期	木 6	— —	—
—	先端科学トピックスB		1	開講せず			—
MK404	知的所有権特論	梅比良正弘、他	1	前期	集中	— —	—
MK405	感性数理工学特論	湊淳	1	後期	水 2	— —	—
MK406	実学的産業特論	★未定	2	後期	水 5	— —	—
MK407	原子科学と倫理	菊地賢司、他	1	後期	集中	— —	—
MK500	霞ヶ浦環境科学概論	吉田（貢）、黒田、中里、藤田	1	前期	集中	— —	農業
MK501	食料の安定生産と農学	新田洋司、他	1	前期	木 4	— —	農業
MK502	バイオテクノロジーと社会	安西、立川、古谷	1	前期	夏季集中	— —	—
MK503	持続社会システム論Ⅰ	中川光弘、他	1	後期	月 1	— —	農業
MK504	地域サステナビリティ農学概論	小松崎、太田、成澤、★金子	1	後期	集中	— —	農業

(2) 農学基礎科目

No.	授業科目名	担当教員	単 位	開講 時期	曜日講時		教職 対応
					社会人向 曜日講時		
AM001	応用生理学	森、太田、浅木、小川、中島(弘) 青柳、豊田、岩科、佐藤	2	第Ⅰ期	火 1・2	土 1・2	農業
AM002	応用生態学		2	開講せず			農業
AM003	分子細胞生物学	小島、大久保、久保山、國府方	2	第Ⅱ期	木 1・2	土 5・6	農業
AM004	生物機能分子学		2	開講せず			農業
AM005	生物資源環境学	岡山、牧山、小林、前田、西脇、中石	2	第Ⅰ期	木 1・2	土 5・6	農業
AM006	環境情報・政策学		2	開講せず			農業
AM007	環境共生農学特論	小松崎、太田、成澤	1	第Ⅲ・Ⅳ期	集中		
AM008	科学論文作成技術論	太田、新田	1	第Ⅲ・Ⅳ期	集中		
AM009	キャパシティ・ディベロップメント論	★古市信吾	1	第Ⅲ・Ⅳ期	集中		
AM010	プロジェクト運営管理演習		2	開講せず			
AM011	農業技術普及論	佐藤	1	第Ⅲ・Ⅳ期	集中		
DK019	バイオインフォマティクス		2	開講せず			

(注1) 開講時期欄のⅠは4/11(金)～、Ⅱは6/11(水)～、Ⅲは10/1(水)～、Ⅳは12/1(月)～授業開始となります。

(注2) 「社会人向」欄は、大学院設置基準第14条の教育方法の特例措置(社会人学生用)の開講時期等を指します。

(注3) AM001～AM006の科目は、隔年開講です。

(3) 専攻科目、(4) 特別研究、(5) 特別演習およびプレゼンテーション演習

1) 生物生産科学専攻

★非常勤講師

専門分野	No.	専攻科目	担当教員	単位	開 講 時 期								曜日 講時	社会人 向け 曜日 講時	教職 対応	備考
					1年次				2年次							
					前学期		後学期		前学期		後学期					
					I	II	III	IV	I	II	III	IV				
植物生産科学	AM101	栽培学特論	浅木直美	1			1						火 1	水 6	農業	
	AM102	作物機能形態学特論	新田洋司	1				1					木 2	水 6	農業	
	AM103	園芸資源植物学特論	井上栄一	1			1						金 2	金 6	農業	
	AM104	施設園芸学特論	東尾久雄	1				1					金 2	金 6	農業	
	AM105	植物生体防御学特論	阿久津克己	1			1						月 2	月 6	農業	
	AM106	植物病害防除学特論	中島雅己	1				1					月 2	月 6	農業	
	AM107	植物ダニ学特論	後藤哲雄	1			1						火 3	火 6	農業	
	AM108	応用昆虫学特論	北嶋康樹	1				1					火 3	火 6	農業	
	AM109	植物資源制御学特論	久保山勉	1			1						木 2	木 6	農業	
	AM110	園芸生産技術学特論	佐藤達雄	1		1							月 1	月 6	農業	
	AM111	雑草学特論	★佐合隆一	1			1						集中		農業	
	AM112	植物生産科学特別講義 I		1									開講せず		農業	累加可
	AM113	植物生産科学特別講義 II	★未定	1	1								集中		農業	累加可
	AM114	植物生産科学特別講義 III		1									開講せず		農業	累加可
	AM115	植物生産科学特別講義 IV		1									開講せず		農業	累加可
	AM116	植物生産科学特別講義 V		1									開講せず			累加可
	AM117	植物生産科学特別講義 VI		1									開講せず			累加可
		植物生産科学特別演習		3											農業	
動物生産科学	AM201	動物育種遺伝学特論	森 英紀	1			1						木 2	月 7	農業	
	AM202	動物生殖科学特論	森 英紀	1				1					木 2	月 7	農業	
	AM203	動物機能形態学特論	中島弘美	1		1							木 3	木 6	農業	
	AM204	飼料資源科学特論	豊田 淳	1	1								金 3	火 6	農業	
	AM205	動物栄養学特論	青柳陽介	1			1						金 3	金 6	農業	
	AM206	動物医療・保健学特論	上塚浩司	1		1							火 4	火 6	農業	
	AM207	動物医療免疫学特論	小川恭喜	1				1					水 2	水 6	農業	
	AM208	応用動物行動学特論		1									開講せず		農業	
	AM209	放牧生態学特論	安江 健	1		1							火 3	火 6	農業	
	AM210	家畜生産物加工学特論	宮口右二	1			1						火 1	木 7	農業	
	AM211	家畜福祉学特論	小針大助	1				1					金 3	金 6	農業	
	AM212	動物生産科学特別講義 I	未定	1			1						集中		農業	累加可
	AM213	動物生産科学特別講義 II		1									開講せず		農業	累加可
	AM214	動物生産科学特別講義 III	小川恭喜	1			1						水 2	水 6	農業	累加可
	AM215	動物生産科学特別講義 IV		1									開講せず		農業	累加可
	AM216	動物生産科学特別講義 V		1									開講せず		農業	累加可
	AM217	動物生産科学特別講義 VI		1									開講せず		農業	累加可
		動物生産科学特別演習		3											農業	
		生物生産科学プレゼンテーション演習		1											農業	
		生物生産科学特別研究		10											農業	

(注1) 開講時期欄の I は4/11(金)～、II は6/11(水)～、III は10/1(水)～、IV は12/1(月)～授業開始となります。

(注2) 「社会人向」欄は、大学院設置基準第14条の教育方法の特例措置(社会人学生用)の開講時期等を指します。

2) 資源生物科学専攻

★非常勤講師

専門分野	No.	専攻科目	担当教員	単位	開 講 時 期								曜日 講時	社会人 向け 曜日 講時	教職 対応	備考
					1年次				2年次							
					前学期		後学期		前学期		後学期					
					I	II	III	IV	I	II	III	IV				
応用生命科学	AM301	分子生物化学特論Ⅰ	高原英成	1		1						火 3	火 7	農業		
	AM302	分子生物化学特論Ⅱ	小島俊雄	1			1					水 2	水 6	農業		
	AM303	分子遺伝学特論		1								開講せず		農業		
	AM304	遺伝子制御学特論	朝山宗彦	1			1					金 3	金 6	農業		
	AM305	分子微生物学特論	久留主泰朗	1	1							月 3	水 6	農業		
	AM306	応用微生物学特論	西原宏史	1		1						火 4	水 6	農業		
	AM307	植物育種・細胞工学特論	渡部信義	1	1							火 3	火 6	農業		
	AM308	動物細胞工学特論Ⅰ	大久保武	1		1						月 3	月 6	農業		
	AM309	動物細胞工学特論Ⅱ	金澤卓弥	1	1							水 1	水 7	農業		
	AM310	食品生化学特論Ⅰ	白岩雅和	1			1					木 2	火 6	農業		
	AM311	食品生化学特論Ⅱ	長南 茂	1	1							金 3	金 6	農業		
	AM312	食品分子機能学特論	米倉政実	1			1					火 1	火 7	農業		
	AM313	機能性食品特論	上妻由章	1				1				水 2	水 6	農業		
	AM314	植物分子生物学特論	安西弘行	1			1					水 3	水 7	農業		
	AM315	植物化学分類学特論	岩科 司	1				1				集中		農業		
	AM316	資源植物保全学特論	秋山 忍	1				1				集中		農業		
	AM317	植物分子・細胞系統学特論	國府方吾郎	1				1				集中		農業		
	AM318	食品機能工学特論	八巻幸二	1				1				集中		農業		
	AM319	糖鎖工学特論	舟根和美	1				1				集中		農業		
	AM320	食品免疫学特論	石川祐子	1				1				集中		農業		
	AM321	応用生命科学特別講義Ⅰ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM322	応用生命科学特別講義Ⅱ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM323	応用生命科学特別講義Ⅲ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM324	応用生命科学特別講義Ⅳ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM325	応用生命科学特別講義Ⅴ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM326	応用生命科学特別講義Ⅵ		1								開講せず		農業	累加可	
		応用生命科学特別演習		3										農業		
農業化学生態学	AM401	環境土壌・肥科学特論	西澤智康	1			1					木 3	木 6	農業		
	AM402	生物制御化学特論	長谷川守文	1	1							木 3	木 7	農業		
	AM403	天然物化学特論	戸嶋浩明	1				1				金 3	金 6	農業		
	AM404	微生物生態学特論	成澤才彦	1			1					月 3	月 6	農業		
	AM405	化学生態学特論	鈴木義人	1			1					木 4	金 7	農業		
	AM406	熱帯環境化学特論		1								開講せず		農業		
	AM407	環境毒性化学特論	太田寛行	1	1							月 2	月 7	農業		
	AM408	農業化学生態学特別講義Ⅰ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM409	農業化学生態学特別講義Ⅱ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM410	農業化学生態学特別講義Ⅲ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM411	農業化学生態学特別講義Ⅳ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM412	農業化学生態学特別講義Ⅴ		1								開講せず		農業	累加可	
	AM413	農業化学生態学特別講義Ⅵ		1								開講せず		農業	累加可	
			農業化学生態学特別演習		3										農業	
		資源生物科学プレゼンテーション演習		1										農業		
		資源生物科学特別研究		10										農業		

(注1) 開講時期欄のⅠは4/11(金)～、Ⅱは6/11(水)～、Ⅲは10/1(水)～、Ⅳは12/1(月)～授業開始となります。

(注2) 「社会人向」欄は、大学院設置基準第14条の教育方法の特例措置(社会人学生用)の開講時期等を指します。

3) 地域環境科学専攻

★非常勤講師

専門分野	No.	専攻科目	担当教員	単位	開 講 時 期								曜日 講時	社会人 向け 曜日 講時	教職 対応	備考
					1年次				2年次							
					前学期		後学期		前学期		後学期					
					I	II	III	IV	I	II	III	IV				
地域環境工学	AM501	土壌環境工学特論	西脇淳子	1			1					火 3	火 6	農業		
	AM502	水田整備工学	牧山正男	1		1						水 3	火 6	農業		
	AM503	水環境再生工学 I	前田滋哉	1	1							火 3	火 6	農業		
	AM504	水環境再生工学 II	黒田久雄	1			1					月 3	月 6	農業		
	AM505	水質水文学		1								開講せず		農業		
	AM506	利水系の水理学	吉田貢士	1			1					水 3	水 6	農業		
	AM507	分散凝集の基礎理論	中石克也	1		1						金 3	金 6	農業		
	AM508	地域資源管理学	小林 久	1		1						水 3	土 3	農業		
	AM509	生物生産機械学特論	岡山 毅	1	1							水 3	水 6	農業		
	AM510	計測工学特論		1								開講せず		農業		
	AM511	持続的農業システム管理学特論	小松崎将一	1			1					金 2	金 6	農業		
	AM512	地域環境工学特別講義 I		1								開講せず		農業	累加可	
	AM513	地域環境工学特別講義 II		1								開講せず		農業	累加可	
	AM514	地域環境工学特別講義 III		1								開講せず		農業	累加可	
	AM515	地域環境工学特別講義 IV		1								開講せず		農業	累加可	
	AM516	地域環境工学特別講義 V		1								開講せず		農業	累加可	
	AM517	地域環境工学特別講義 VI		1								開講せず		農業	累加可	
		地域環境工学特別演習		3										農業		
緑環境システム科学	AM601	緑環境システム史特論 I	伊丹一浩	1			1					金 4	金 7	農業		
	AM602	緑環境システム史特論 II	伊丹一浩	1			1					金 4	金 7	農業		
	AM603	緑環境政策学特論 I	西川邦夫	1	1							月 2	月 6	農業		
	AM604	緑環境政策学特論 II	西川邦夫	1		1						月 2	月 6	農業		
	AM605	開発計量経済学特論 I	中川光弘	1			1					火 2	火 6	農業		
	AM606	開発計量経済学特論 II	中川光弘	1			1					火 2	火 6	農業		
	AM607	国際食料情報学特論 I	長澤 淳	1			1					月 3	月 6	農業		
	AM608	国際食料情報学特論 II	長澤 淳	1			1					月 3	月 6	農業		
	AM609	経済数学特論 I	内田 晋	1	1							金 4	金 7	農業		
	AM610	経済数学特論 II	内田 晋	1		1						金 4	金 7	農業		
	AM611	地域政策科学特論 I	福與徳文	1			1					火 4	火 6	農業		
	AM612	地域政策科学特論 II	福與徳文	1			1					火 4	火 6	農業		
	AM613	再生資源循環特論 I		1								開講せず		農業		
	AM614	再生資源循環特論 II		1								開講せず		農業		
	AM615	比較農政学特論 I	立川雅司	1	1							木 3	木 6	農業		
	AM616	比較農政学特論 II	立川雅司	1		1						木 3	木 6	農業		
	AM617	農環境システム学特論 I	田附明夫	1			1					金 3	土 2	農業		
	AM618	農環境システム学特論 II	田附明夫	1			1					金 3	土 2	農業		
	AM619	農村情報メディア特論 I	木下嗣基	1			1					火 4	火 6	農業		
	AM620	農村情報メディア特論 II	木下嗣基	1			1					火 4	火 6	農業		
	AM621	農業情報学特論 I	増富祐司	1			1					月 4	月 6	農業		
	AM622	農業情報学特論 II	増富祐司	1			1					月 4	月 6	農業		
	AM623	緑環境システム科学特別講義 I		1								開講せず		農業	累加可	
	AM624	緑環境システム科学特別講義 II		1								開講せず		農業	累加可	
	AM625	緑環境システム科学特別講義 III		1								開講せず		農業	累加可	
	AM626	緑環境システム科学特別講義 IV	★矢口芳生	1			1					集中		農業	累加可	
	AM627	緑環境システム科学特別講義 V		1								開講せず		農業	累加可	
	AM628	緑環境システム科学特別講義 VI		1								開講せず		農業	累加可	
	AM629	地球環境学概論※(注3)	中川光弘	2			2					集中				
		緑環境システム科学特別演習		3										農業		
		地域環境科学プレゼンテーション演習		1										農業		
		地域環境科学特別研究		10										農業		

(注1) 開講時期欄の I は4/11(金)～、II は6/11(水)～、III は10/1(水)～、IV は12/1(月)～授業開始となります。

(注2) 「社会人向け」欄は、大学院設置基準第14条の教育方法の特例措置(社会人学生用)の開講時期等を指します。

(注3) ※印の科目は、修了要件外科目です。

6. 特別研究計画書及び特別研究経過報告書の提出、審査論文の提出及び最終試験要領

(1) 特別研究計画書の提出

特別研究の開始にあたっては、研究題目と研究計画について主指導教員と十分な議論を行い、さらに主指導教員が選定した2名の副指導教員とも十分な議論を行い、確定した研究題目と研究計画を記載し、主指導教員の指導計画を得て特別研究計画書（様式1）を作成して学務係に提出しなければなりません。特別研究計画書の提出期限は入学年度の6月1日（当日が休日の場合は翌日）までとします。

(2) 特別研究経過報告書の提出

2年次以降においては、これまでの特別研究の経過について指導教員と十分な議論を行い、主指導教員の所見を得て、特別研究経過報告書（様式2）を作成して学務係に提出しなければなりません。特別研究経過報告書の提出期限は毎年度6月1日（当日が休日の場合は翌日）までとします。

(3) 審査論文の提出及び審査

		3月修了	9月修了
1	審査論文の提出資格	所属専攻に1年以上在学し、修士課程修了見込みの者。	
2	審査論文の提出方法	A4サイズの用紙を用いて作成した審査論文、論文要旨（2,000字）及び論文審査願（様式3）を、所定の期日までに学務係に提出。	
	審査論文の提出期限	2月1日 （当日が休日の場合は翌日）まで	8月1日 （当日が休日の場合は翌日）まで
	審査論文の提出部数	3部（論文要旨を添付すること）	
3	修士論文審査会	主指導教員を主査とし、2名の副指導教員を副査として修士論文審査会が構成され、論文が審査されます。	
4	学位論文の提出及び保管	論文審査に合格し、修士論文審査会の指摘事項等に対応して完成した 学位論文1部 を所定の期日までに学務係に提出しなければなりません。提出された学位論文は茨城大学図書館農学部分館に保管されます。	
	提出期限	3月20日（当日が休日の場合は翌日）まで	9月20日（当日が休日の場合は翌日）まで
5	論文題目の変更	特別研究計画書に記載の研究題目と審査論文題目が異なる場合には、主及び副指導教員の承諾を得て、所定の期日までに論文題目変更届（様式4）を研究科長に届けなければなりません。	
	変更期限	2月1日 （当日が休日の場合は翌日）まで	8月1日 （当日が休日の場合は翌日）まで

(4) 最終試験

修士論文審査会において行う口頭発表及び質疑応答を最終試験とします。修士論文は、所属専攻または所属専門分野が主催する修士論文発表会において口頭発表しなければなりません。

(5) その他不明の点があれば主指導教員および学務係に問い合わせてください。

7. 教育職員免許について

(1) 高等学校専修免許状（農業）について

本研究科において、修了資格を得た者で、免許教科に応じた「教科に関する科目」のうちから24単位以上修得した者は、高等学校専修免許状（農業）を得ることができます。

ただし、専修免許状の授与資格を得ることができる者は、既に当該免許の一種免許状（農業）を授与されている者（授与資格を得ている者を含む）で、必要科目の単位を59単位以上修得している者に限られます。 ※

※必要科目59単位以上の内訳は、「教科に関する科目20単位、教職に関する科目23単位、教科または教職に関する科目16単位」以上となります。

(2) 教科に関する科目の履修について

「教科に関する科目」は、「5. 授業科目」の「教職対応」欄を参照してください。「農業」と記載されている授業科目が、高等学校専修免許状（農業）に対応する「教科に関する科目」です。「教科に関する科目」に指定されている科目以外を修得しても、資格要件の24単位には含まれませんので注意してください。

(3) 教育職員免許状一括申請について

本研究科の修了予定年次に所属している学生に対しては、「教育職員免許状一括申請」（茨城県教育委員会）の受付を行う予定です。詳細は毎年10月～11月頃に掲示しますので、注意してください。

8. 地域サステナビリティの実践農学教育プログラム履修要項

(1)本プログラムの目指すもの

●ディプロマポリシー

「サステナビリティ」という概念の持つ多様性・国際性・学際性を理解し、農業と環境に関する地域社会の問題についての専門知識および問題解決に対する実践的な能力を養うと共に、社会への適用について検討できることを目指します。

●カリキュラムポリシー

「サステナビリティ」についての専門知識、および問題解決に対する実践的な能力を養うため、持続性がより必要とされる熱帯農業地域での実習および現地の教員・学生とのディスカッションを通じて、基礎から応用の実践と、応用から基礎へのフィードバックを学びます。

(2)本プログラムの修了要件

各専攻における課程修了条件(30 単位以上)を満たした上で、下表に示す授業科目(4 単位全て必修)を履修すると、「地域サステナビリティの実践農学教育プログラム」(副専攻)を修了したことが認定されます。

★非常勤講師

授業科目	担当教員	単位	開講時期
※ 地域サステナビリティ農学概論 ※ Overview of agricultural science toward regional sustainability	太田、小松崎、成澤 ★金子	1	後学期 集中
注 アジア農業論 Asian tropical agriculture	★未定	1	後学期 集中
注 熱帯農業フィールド実習 Field practice for tropical agriculture	坂上、浅木、西脇	1	通年 集中 インドネシアで開講
注 グループ課題演習 Group discussion practice	坂上、佐藤、小松崎	1	通年 集中 日本、インドネシアで開講

※:本プログラムを履修する場合は、カリキュラム修了要件である「大学院共通科目」の単位としては認定しません。本授業科目以外の大学院共通科目を修得することで、カリキュラム修了要件単位数(2単位)を満たしてください。

注:これらの科目の修得単位は、カリキュラムの修了に必要な単位数に含まれないので注意すること。

(3)履修方法

本プログラムの履修を希望する者は、プログラム・ガイダンス(5月頃開催予定)に必ず出席し、具体的な履修方法について説明を受けてください。

履修希望者は、指導教員の承認を得た上で、「地域サステナビリティの実践農学教育プログラム履修届」を必ず学務係に提出してください。授業受講に際しては、授業担当教員に受講票を提出してください。

(4) 授業の概要(詳細はシラバスを参照してください)

1) 地域サステナビリティ農学概論

地域と地球の環境問題を、ローカルな視点とグローバルな視点で直視する地域サステナビリティに関連する分野の専門知識を集約した授業内容です。外部の講師を交え、一人一人が地域のサステナビリティを深く考える対話型の講義を展開します。本授業は、英語での開講です。

2) アジア農業論

稲作を主とするモンスーンアジア農業は、アジア地域の人口増加に大きな役割を担っています。

その農業の生産性と多様性について概観し、地球レベルおよび地域レベルでの農業が直面している社会的な課題や環境問題について、典型的なアジアモンスーン地域であるインドネシア国を事例に講義します。本授業は、英語での開講です。

3) 熱帯農業フィールド実習

大学間協定を結ぶインドネシア3大学(ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、ウダヤナ大学)のいずれかに訪問し、受け入れ大学の大学院生とともに熱帯における持続的農業の調査実習を行います。現地での実習期間は一週間です。

4) グループ課題演習

インドネシア3大学(ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、ウダヤナ大学)の学生、教員と共に、地域の農業と環境に関する課題を決めて、共同でレポートを作成する演習です。なお、本演習は「熱帯農業フィールド実習」と連動しており、2回に分けて、インドネシアならびに茨城大学で実施します。

9. サステナビリティ学教育プログラム履修要項

(1)趣旨

環境問題やエネルギー・資源の不足、水・食料の逼迫、人口問題などを解決して、社会の持続可能性（サステナビリティ）をいかに確保するかは、現代の大きな課題になっています。本プログラムは、基盤科目や海外及び国内での現場演習を通して、これらの問題を把握する俯瞰的視点と専門分野の知識をつなぐ分野横断的な勉学の機会を提供します。

(2)授業科目

区分	授業科目	単位	1～2年次		備考	
			前期	後期		
コア 科目	基盤科目	サステナビリティ学最前線	2	2	【必修】SSC 参加大学共同開講科目（SSC 共通科目）	
		地球環境システム論Ⅰ	1	1	大学院共通科目	
		地球環境システム論Ⅱ	1	1	大学院共通科目	
		持続社会システム論Ⅰ	1	1	大学院共通科目	
		持続社会システム論Ⅱ	1	1	大学院共通科目	
		人間システム基礎論Ⅰ	1	1	大学院共通科目	
	人間システム基礎論Ⅱ	1	1	大学院共通科目		
	演習科目	国際実践教育演習	2	2		他研究科授業科目
		国内実践教育演習	2	2		他研究科授業科目
		ファシリテーション能力開発演習Ⅰ	1	1		他研究科授業科目
ファシリテーション能力開発演習Ⅱ		1	1		他研究科授業科目	
サステナビリティ学インターンシップ ^o		2	関係教員		他研究科授業科目	
専門科目	農学研究科指定科目	4	—	—	所属専門分野の専攻科目	

(3)プログラムの修了要件

基盤科目及び演習科目の中から6単位以上、農学研究科が指定する専門科目の中から4単位以上、合計10単位以上を履修すること（各専攻における課程修了要件（30単位以上）を満たしていることが必須）。基盤科目「サステナビリティ学最前線」は、サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム（SSC）参加大学が協力して開講する科目で、必修科目です。

(4)履修上の注意事項

- 1) 基盤科目及び演習科目は、地球変動適応科学研究機関の協力の下で開講する科目です。これらの科目は、大学院共通科目又は本プログラムでのバンドで開講します。
- 2) 上記表のうち、備考欄に「大学院共通科目」とあるものは、本プログラムの科目かつ大学院共通科目として申告できます。
- 3) 農学研究科が指定する科目については、所属専門分野の専攻科目とし、本プログラムの科目かつカリキュラム修了の要件に該当する科目として申告できます。
- 4) 上記表のうち、備考欄に「他大学授業科目」、「他研究科授業科目」とあるものは、「4. カリキュラム修了の要件」に記載の「他の研究科及び他の大学院の授業科目を10単位を限度に専攻科目の授業科目に充てる」ことができます。ただし、所属専門分野科目（4単位）に充てることはできません。

- 5) 国際実践教育演習及び国内実践教育演習の履修にあたっては、学生教育研究災害保険に加入し、担当教員からの指示に従うことが必要です。
- 6) このプログラムの履修を希望する者は、指導教員と相談し了解を得た上で、所定の「サステナビリティ学教育プログラム履修届」を、必ず農学部学務係に提出して下さい。
- 7) 所定の修了要件を満たした学生には、農学研究科長名で「農学研究科サステナビリティ学教育プログラム修了認定証」及び「SSC 共同教育プログラム修了認定証」が与えられます。

【参考】

- (1) サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC) とは

サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC) は、サステナビリティ・サイエンスの視点に立脚した研究教育を推進するために2010年に設立された一般社団法人です。新しい人材育成を先導するとともに、広く市民社会にネットワークを広げ、持続可能な社会形成のための啓発普及活動を行うとともに、政府・自治体・企業・NPO等と協働で、サステナビリティの実現に向けた実践活動を展開することを目的としています。東京大学、大阪大学などSSCの参加大学で「サステナビリティ学最前線」を共同開講しています。

- (2) 地球変動適応科学研究機関 (ICAS) とは

地球変動適応科学研究機関 (ICAS: Institute for Global Change Adaptation Science) は、サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) 構成大学の1つとして2006年に茨城大学に設置された研究機関です。高い人口増加や経済成長が見込まれる一方で、気候変動や自然災害の影響が高まることが懸念されるアジア・太平洋地域を対象に、気候変動への適応を中心にサステナビリティ学の研究、教育、アウトリーチ活動を進めています。ICASには茨城大学の全学部から教員が参加し、サステナビリティ学教育プログラムでも中心的な役割を担っています。

- (3) 茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムホームページ

本プログラムの趣旨・概要などの他、関係授業科目の開講スケジュール・日程、授業に関する最新情報が入手できます。 <http://www.grad.ibaraki.ac.jp/gpss/>

10. ダブルディグリープログラム履修要項

1 概要

ダブルディグリープログラム履修者は茨城大学およびインドネシアの大学の大学院修士課程に入学し、両大学院の学位授与要件を満たすことで、それぞれの修士の学位が授与されます。両大学における研究と教育とを通じて、国際社会で活躍するための幅広い知識・技能や国際感覚を習得することを目標としています。

2 本プログラムの履修条件

- ・本研究科の修士学生であること。
- ・受入先の大学に共同研究に対応できる受入可能な教員がおり、環境が整っていること(農学研究科修士課程入学時から主指導教員と相談し、受入大学への入学準備を開始していることが望ましい)

※本プログラムの履修を希望する場合は、4月中に学務係に履修届および留学願を提出してください。

3 2014年度 受入大学

ボゴール農科大学 (IPB) , ガジャ・マダ大学 (UGM) , ウダヤナ大学 (UNUD)
受入大学におよそ一年間留学し、授業履修と修士論文研究を行います。

4 茨城大学のカリキュラム修了の要件

カリキュラム修了要件(4P)を参照してください。ただし、インドネシアで履修する科目のうち、6単位程度を専攻科目として振り替える予定です。

5 インドネシア受入大学カリキュラム修了の要件

各大学の修了の要件は、研究科所定の科目について必要な修得単位数を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することです。なお、何らかの事情で受入大学での修了が困難となった場合には、茨城大学農学研究科のみを修了することになります。その場合、受入大学で修得した単位のうち、本研究科専攻科目に振替可能な科目がある場合は、単位認定が可能です。

・ボゴール農科大学の例

研究科所定の科目	必要な修得単位数
1) 基礎科目(統計・英語)	6 ※英語科目はTOEFL等の成績による免除あり
2) 専攻選択科目	10 以上 ※茨城大学から10単位を振替
3) 専攻必修科目	15 以上 ※茨城大学から4単位を振替
4) セミナー・コロキウム	2
5) 修士論文	6
合計	39以上

・ガジャ・マダ大学の例

研究科所定の科目	必要な修得単位数
1) 専攻必修科目	17 以上
2) 選択必修科目	16 以上 ※茨城大学から10単位を振替
3) プロポーザル	2
4) 修士論文	6
合計	41以上

・ウダヤナ大学の例

研究科所定の科目	必要な修得単位数
1) 基礎科目	2 以上
2) 専攻選択科目	8 以上 ※茨城大学から 8 単位を振替
3) 専攻必修科目	2 6 以上 ※茨城大学から 1 4 単位を振替
4) セミナー・プロポーザル	4
5) 修士論文	6
合計	4 6 以上

6 修士論文の作成

茨城大学、ならびにインドネシア交流大学の学位（修士）を取得するためには、2つの論文（それぞれ別の内容であること。）を提出します。学位審査は、提出を受けた大学院がそれぞれの論文に対して行います。

なお、本プログラムは大学間の連携に基づく教育プログラムであることを鑑み、研究課題の設定については両大学が取り組む共同研究をベースにしたものとし、両大学に提出論文はそれぞれ別の内容ではありますが、研究としての一貫性があることが望まれます。

7 最終審査および最終試験

A. 農学研究科での審査および最終試験

学位規則に基づき設置された審査委員会（主指導教員を主査、副指導教員 2 名を副査とします。また交流大学の受け入れ教員を副査に加えることができます）において提出された修士論文についての審査と最終試験を行い評価（合否）します。また、公開の修士論文発表会を開催し、論文を中心とした最終試験を行い、各専攻は審査会の評価の確認を行います。

B. インドネシア交流大学での審査および最終試験

各大学の学位規則に基づき学位審査（受け入れ教員を主査、農学研究科の主指導教員を副査とする予定）において提出された修士論文についての審査と最終試験を行い評価（合否）します。

12. 茨城大学大学院農学研究科規則

(昭和45年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人茨城大学組織規則第20条第4項及び茨城大学大学院学則第5条の2に基づき、茨城大学大学院農学研究科(以下「研究科」という。)に関する必要な事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 研究科は、21世紀に求められる環境と調和した人類の持続的発展のために、農学を基盤とした食料・生命・環境に関する幅広い基礎知識と専攻分野における高度な専門知識・技術及び研究開発能力を備え、地域・国際社会で自立的に問題解決ができる力を持った人材の養成を図り、もって、広く文化と社会の進展に寄与することを目的とする。

(構成)

第3条 研究科に次の専攻を置く。

生物生産科学専攻
資源生物科学専攻
地域環境科学専攻

(指導教員)

第4条 学生の履修を指導するために指導教員を置く。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第5条 共通科目及び各専攻における授業科目並びに単位数は、別表のとおりとする。

2 共通科目は、大学院共通科目及び研究科共通科目で構成し、研究科共通科目を農学基礎科目と称するものとする。

3 履修方法は、別表備考欄の定めるところによるものとする。

(履修科目の登録)

第6条 学生は、履修しようとする授業科目を毎学期の始めに、研究科長に届け出なければならない。

(教育プログラム)

第7条 研究科に次の教育プログラムを置く。

サステイナビリティ学教育プログラム
地域サステイナビリティ実践農学教育プログラム

2 教育プログラムの授業科目、単位数及び履修方法は、別表のとおりとする。

3 研究科長は、第14条に定める修了の要件を満たし、教育プログラムが定める授業科目の中から所定の単位を修得した者に、プログラム修了証を授与するものとする。

(教育方法の特例)

第8条 教育上特別の必要があると認めるときは、夜間その他特定の時間又は時期に授業又は研究指導を行うことができる。

(試験及び単位の認定)

第9条 授業科目の単位の認定は、試験、その他の方法により行う。

2 再試験及び追試験については、研究科委員会の議を経て行うものとする。

(他の研究科又は他の大学院の授業科目の履修等)

第10条 学生は、指導教員が必要と認めるときは、他の研究科の授業科目を当該研究科長の許可を得て、履修することができる。

2 学生は、研究科長の許可を得て、他の大学院の授業科目を当該大学院の許可を得て履修することができる。この場合において、研究科長は、あらかじめ当該大学院との間において必要な事項について、協議しなければならない。

3 前2項の規定により修得した単位は、10単位を限度に専攻の修了要件となる単位に認めることができる。
(他の大学院又は研究所等における研究指導)

第11条 学生は、研究科長の許可を得て、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の場合において、研究科長は、あらかじめ当該大学院又は研究所等との間において必要な事項について、協議しなければならない。
(入学前の既修得単位の認定)

第12条 研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が研究科に入学する前に研究科又は他の大学院において修得した単位を、研究科入学後の研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位は、転入学及び再入学の場合を除き、研究科において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

3 前2項に規定するもののほか、入学前の既修得単位等の認定に関する手続等は別に定める。
(長期履修学生)

第13条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、茨城大学大学院長期履修学生規則の定めるところにより、長期履修学生として許可することがある。

2 前項に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。
(成績評価)

第14条 授業科目の試験又は研究報告書等の成績評価は、100点をもって満点とし、A+ (90点以上)、A (80点以上90点未満)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満) 及びD (60点未満) の評語で表し、A+、A、B、及びCを合格とする。

(学位論文の提出及び審査)

第15条 学位論文は、指定された期間までに主指導教員の承諾を得て、研究科長に提出しなければならない。

2 学位論文の審査については、茨城大学学位規則の定めるところによる。

(最終試験)

第16条 最終試験については、茨城大学学位規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第17条 修了の要件は、研究科に2年以上在学し、研究科所定の科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか、必要な事項については、研究科委員会が定める。

附 則

この規則は、昭和 45 年 4 月 1 日から施行する。

《 中 略 》

附 則

- 1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規則は、平成 26 年度第 1 学年入学者から適用し、平成 25 年度以前の入学者並びに当該入学者と同学年に転入学及び再入学する者については、なお従前の例による。

別表(第 5 条関係、第 7 条関係)

大学院共通科目

授業科目	単位数	授業科目	単位数
地球環境システム論 I	1	科学と倫理	2
地球環境システム論 II	1	実践的産業特論	2
人間システム基礎論 I	1	学術情報リテラシー	1
人間システム基礎論 II	1	原子科学と倫理	1
学術英会話	2	知的所有権特論	1
研究と教育	2	持続社会システム論 I	1
国際コミュニケーション基礎	2	持続社会システム論 II	1
実践国際コミュニケーション	2	地域サステイナビリティ農学概論	1
先端科学トピックス A	1	食料の安定生産と農学	1
先端科学トピックス B	1	霞ヶ浦環境科学概論	1
感性数理工学特論	1	バイオテクノロジーと社会	1

農学基礎科目

授業科目	単位数	授業科目	単位数
応用生理学	2	環境共生農学特論	1
応用生態学	2	科学論文作成技術論	1
分子細胞生物学	2	キャパシティ・ディベロップメント論	1
生物機能分子学	2	プロジェクト運営管理演習	2
生物資源環境学	2	農業技術普及論	1
環境情報・政策学	2	バイオインフォマティクス	2

生 物 生 産 科 学 専 攻

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
栽培学特論	1	動物生殖科学特論	1
作物機能形態学特論	1	動物機能形態学特論	1
園芸資源植物学特論	1	飼料資源科学特論	1
施設園芸学特論	1	動物栄養学特論	1
植物生体防御学特論	1	動物医療・保健学特論	1
植物病害防除学特論	1	動物医療免疫学特論	1
植物ダニ学特論	1	応用動物行動学特論	1
応用昆虫学特論	1	放牧生態学特論	1
植物資源制御学特論	1	家畜生産物加工学特論	1
園芸生産技術学特論	1	家畜福祉学特論	1
雑草学特論	1	動物生産科学特別講義 I～VI	各 1
植物生産科学特別講義 I～VI	各 1	動物生産科学特別演習	3
植物生産科学特別演習	3	生物生産科学プレゼンテーション演習	1
動物育種遺伝学特論	1	生物生産科学特別研究	10
備考（履修方法）			
<p>1 所属専門分野の特別演習 3 単位、所属専攻のプレゼンテーション演習 1 単位及び特別研究 10 単位を必修とし、大学院共通科目の授業科目から 2 単位以上、農学基礎科目から 4 単位以上、全専攻の授業科目から 10 単位以上（ただし、所属専門分野の授業科目から 4 単位以上を履修すること。）の合計 30 単位以上を履修すること。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、社会人特別選抜入学試験入学者のうち教育上特別の必要があると認められた者については、当面、所属専門分野の特別演習 3 単位、所属専攻のプレゼンテーション演習 1 単位及び特別研究 10 単位を必修とし、農学基礎科目の授業科目から 6 単位以上、全専攻の授業科目から 10 単位以上（ただし、所属専門分野の授業科目から 4 単位以上を履修すること。）の合計 30 単位以上を履修すること。</p> <p>3 研究科長が認めた他の研究科及び他の大学院で履修した授業科目の単位を 10 単位を限度に専攻の修了の要件となる単位に充てることができる。</p>			

資 源 生 物 科 学 専 攻

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
分子生物化学特論 I	1	※糖鎖工学特論	1
分子生物化学特論 II	1	※食品免疫学特論	1
分子遺伝学特論	1	応用生命科学特別講義 I～VI	各 1
遺伝子制御学特論	1	応用生命科学特別演習	3
分子微生物学特論	1	環境土壌・肥科学特論	1
応用微生物学特論	1	生物制御化学特論	1
植物育種・細胞工学特論	1	天然物化学特論	1
動物細胞工学特論 I	1	微生物生態学特論	1
動物細胞工学特論 II	1	化学生態学特論	1
食品生化学特論 I	1	熱帯環境化学特論	1
食品生化学特論 II	1	環境毒性化学特論	1
食品分子機能学特論	1	農業化学生態学特別講義 I～VI	各 1
機能性食品特論	1	農業化学生態学特別演習	3
植物分子生物学特論	1	資源生物科学プレゼンテーション演習	1
※植物化学分類学特論	1	資源生物科学特別研究	10
※資源植物保全学特論	1		
※植物分子・細胞系統学特論	1		
※食品機能工学特論	1		
備考（履修方法）			
1 所属専門分野の特別演習 3 単位、所属専攻のプレゼンテーション演習 1 単位及び特別研究 10 単位を必修とし、大学院共通科目の授業科目から 2 単位以上、農学基礎科目から 4 単位以上、全専攻の授業科目から 10 単位以上（ただし、所属専門分野の授業科目から 4 単位以上を履修すること。）の合計 30 単位以上を履修すること。			
2 前項の規定に関わらず、社会人特別選抜入学試験入学者のうち教育上特別の必要があると認められた者については、当面、所属専門分野の特別演習 3 単位、所属専攻のプレゼンテーション演習 1 単位及び特別研究 10 単位を必修とし、農学基礎科目の授業科目から 6 単位以上、全専攻の授業科目から 10 単位以上（ただし、所属専門分野の授業科目から 4 単位以上を履修すること。）の合計 30 単位以上を履修すること。			
3 ※は、連携大学院方式による授業科目である。			
4 研究科長が認めた他の研究科及び他の大学院で履修した授業科目の単位を 10 単位を 限度に専攻の修了の要件となる単位に充てることができる。			

地 域 環 境 科 学 専 攻

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
土壌環境工学特論	1	国際食料情報学特論Ⅱ	1
水田整備工学	1	経済数学特論Ⅰ	1
水環境再生工学Ⅰ	1	経済数学特論Ⅱ	1
水環境再生工学Ⅱ	1	地域政策科学特論Ⅰ	1
水質水文学	1	地域政策科学特論Ⅱ	1
利水系の水理学	1	再生資源循環特論Ⅰ	1
分散凝集の基礎理論	1	再生資源循環特論Ⅱ	1
地域資源管理学	1	比較農政学特論Ⅰ	1
生物生産機械学特論	1	比較農政学特論Ⅱ	1
計測工学特論	1	農環境システム学特論Ⅰ	1
持続的農業システム管理学特論	1	農環境システム学特論Ⅱ	1
地域環境工学特別講義Ⅰ～Ⅵ	各1	農村情報メディア特論Ⅰ	1
地域環境工学特別演習	3	農村情報メディア特論Ⅱ	1
緑環境システム史特論Ⅰ	1	農業情報学特論Ⅰ	1
緑環境システム史特論Ⅱ	1	農業情報学特論Ⅱ	1
緑環境政策学特論Ⅰ	1	緑環境システム科学特別講義Ⅰ～Ⅵ	各1
緑環境政策学特論Ⅱ	1	緑環境システム科学特別演習	3
開発計量経済学特論Ⅰ	1	地域環境科学プレゼンテーション演習	1
開発計量経済学特論Ⅱ	1	地域環境科学特別研究	10
国際食料情報学特論Ⅰ	1	地球環境学概論	2
備考（履修方法）			
<p>1 所属専門分野の特別演習 3 単位、所属専攻のプレゼンテーション演習 1 単位及び特別研究 10 単位を必修とし、大学院共通科目の授業科目から 2 単位以上、農学基礎科目から 4 単位以上、全専攻の授業科目から 10 単位以上（ただし、所属専門分野の授業科目から 4 単位以上を履修すること。）の合計 30 単位以上を履修すること。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、社会人特別選抜入学試験入学者のうち教育上特別の必要があると認められた者については、当面、所属専門分野の特別演習 3 単位、所属専攻のプレゼンテーション演習 1 単位及び特別研究 10 単位を必修とし、農学基礎科目の授業科目から 6 単位以上、全専攻の授業科目から 10 単位以上（ただし、所属専門分野の授業科目から 4 単位以上を履修すること。）の合計 30 単位以上を履修すること。</p> <p>3 研究科長が認めた他の研究科及び他の大学院で履修した授業科目の単位を 10 単位を限度に専攻の修了の要件となる単位に充てることができる。</p>			

サステナビリティ学教育プログラム

科目区分		科目名	単位数
コ ア 科 目	基盤科目	サステナビリティ学最前線	2
		地球環境システム論Ⅰ	1
		地球環境システム論Ⅱ	1
		持続社会システム論Ⅰ	1
		持続社会システム論Ⅱ	1
		人間システム基礎論Ⅰ	1
		人間システム基礎論Ⅱ	1
	演習科目	国際実践教育演習	2
		国内実践教育演習	2
		ファシリテーション能力開発演習Ⅰ	1
		ファシリテーション能力開発演習Ⅱ	2
		サステナビリティ学インターンシップ	2
	専門科目	(所属する専門分野の専攻科目の中から、 4単位以上修得する。)	4
	備考（履修方法・修了要件）		
1 基盤科目及び演習科目の中から6単位以上、農学研究科が指定する 専門科目の中から4単位以上、合計10単位以上を履修すること。			

地域サステナビリティ実践農学教育プログラム

科目名	単位
地域サステナビリティ農学概論	1
アジア農業論	1
熱帯農業フィールド実習	1
グループ課題演習	1
備考（履修方法・修了要件）	
1 第14条に定める修了の要件を満たし、かつ、この表に定める授業科目 全てを修得すること。	
2 プログラムを履修する者は、この表に定める授業科目をもって第14条に定め る修了の要件に充てることはできない。	

13. 学生生活

(1) 保健室

農学部では、健康で快適に学生生活を送れるように、健康相談や健康指導等を農学部管理棟 1F の保健室で常勤の看護師が対応しています。

看護師常駐時間

月～金 8:30～17:15 (昼休み 12:00～13:00)
※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇(年末年始)を除く

● 健康診断

健康診断には、定期健康診断、特殊健康診断があります。

[定期健康診断]

毎年1回、今年は4月8日(火)、9日(水)に実施しますので必ず全員受診してください。都合で受診できない場合は事前に保健室の係にご相談ください。

未受診の場合には、奨学金、実習、就職及びその他の事情で健康診断証明書が必要になった場合でも発行されません。各自の負担により医療機関を受診し、健康診断証明書を発行してもらうことになります。

[特殊健康診断]

毎年1回、11月頃に実施します。該当学生は事前に特殊健康診断申込書で申し込みの上、受診してください。学部4年次以上で有害化学物質(有機溶剤及び特定科学物質等)を扱う学生が対象です。

● 健康診断証明書

奨学金申請、就職試験、受験等により健康診断証明書が必要なときは、学生証(ICカード)を用いて、証明書自動発行機から受けとることができます。証明書自動発行機から発行できないときは、保健室の係にご相談ください。

[証明書自動発行機で発行する場合]

稼働時間：8:30～18:00
(時間外、土曜日、日曜日、休日、祝日は稼働しません。)
※パスワードは、情報処理関連の授業で使用するものと同じです。

[保健室で証明書を発行する場合]

保健室で「証明書交付願」に必要事項を記入し、係に提出してください。

※ 代理人へのお渡しはできません。

● 就職に係る健康診断書

就職先から特に指定がない時には、証明書自動発行機から発行された健康診断書を提出できます。

次の場合、自費により医療機関を受診し健康診断書を発行してもらってください。その際は、保健室の係にご相談ください。

- ・就職先に提出する健康診断書の記載項目について、定期健康診断の受診項目で不足する場合
- ・就職先への提出期日が、定期健康診断実施日より前の場合

● 診察・検査・応急処置・健康相談・医療機関への紹介

保健室には応急薬品が常備されていますから、軽度の外傷・風邪の初期の場合など、気軽に利用してください。また、近隣の医療機関の案内や紹介も行っています。

学校医の診察が毎月1回ありますので、気になる症状についての診察や解説、日常生活上の注意など、何でもご相談ください。必要に応じて専門医を紹介します。

その他、必要な場合には、次のような検査ができます。

- 1) 常時行うことができるもの：身体測定・血圧測定・視力検査・体脂肪測定・握力測定
- 2) 医師の指示に基づき行う検査：尿検査・心電図検査

大学内での突然の体調不良やケガが発生した場合は、保健室(TEL:029-888-8529 または 029-888-8519)に連絡してください。

(2) 保険制度

学生が大学生活において、傷害を負った場合に対処する保険として、「学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）及び「学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）があります。学生が安心して教育を受け研究活動できるよう、加入を勧めています。

加入申し込みは保健室で行っております。ご不明な点は、保健室の係にお問い合わせください。

● 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）

国内外において学生が、正課中、学校行事中、学校施設内、学校施設外で大学に届け出た課外活動中、通学中の事故により身体に傷害を被った場合に対処する保険です。

● 学研災付帯賠償保険（略称「付帯賠償」）

国内外において学生が正課、学校行事およびその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財産を損壊したことにより被る法律上の損害補償に対処する保険です。

付帯賠償の加入は学研災加入者に限られます。

● 学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

学生生活の24時間を補償するもので、病気・ケガ等の保険及び賠償責任保険等学生生活全般に保証範囲を広げた保険です。

付帯学総の加入は学研災加入者に限られます。

3. 困りごとや悩みごとの相談

学生の皆さんが生き生きと学生生活を送ることができるよう、いろいろな困りごとや悩みごとについて、学生相談を行っています。

各専攻の相談員や学内の関係部局と連携し、様々な援助やサービスを提供しています。

ささいなことでも、一人で悩まずに問題を一人でため込まないよう気楽に相談してください。もちろん相談内容については、厳しく秘密が守られます。また、相談したことで不合理な取り扱いがなされることは一切ありませんので、安心して相談してください。

[茨大なんでも相談室 阿見分室]

なんでも相談室では、学生のあらゆる相談に応じます。

困っていること、悩んでいることがあれば、どんなことでも相談してください。

相談室で話されたこと、また、利用者のお名前は一切外部には漏れることはありません。

なんでも相談室では、まずインテーカー（相談受付者。農学部では看護師が担当しています。）が相談内容を聞いて、その内容に応じてより適切な相談員を紹介いたします。

○相談は次のような方法でできます。

*直接来談：農学部管理棟 1F の保健室または学生相談室にいらしてください。

開室時間 8:30～17:00 まで（昼休みは 12:00～13:00）

※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇（年末年始）は休み

*電話： 029-888-8528

*手紙：〒300-0393 稲敷郡阿見町中央 3-21-1

茨城大学農学部「茨大なんでも相談室」阿見分室あて

- 相談は、茨大なんでも相談室、同日立分室、同阿見分室、いずれの場所でも受け付けます。
- 開室時間は、時期により変更することがあります。

※茨大なんでも相談室の詳細については、「何か困っていること悩んでいることありませんか」のパンフレットをご覧ください。

【 カウンセラーによるカウンセリング 】

学生時代は、活動範囲も広がり自分と向き合う機会が多くあります。友達や先輩、後輩との関係、勉強、恋愛、進路のことなど、色々と気になることが増える時期かも知れません。たとえば、「友人ができない」、「対人関係（異性関係）について悩んでいる」、「大学に行く気がしない」、「何もやる気がしない」、「性格のことで悩んでいる」、「将来や自分の生き方について不安を感じる」、「先輩や教員とトラブルがある」などの悩みや不安があるかも知れません。誰でも、自分が困難な状況の渦に巻き込まれてしまうと、冷静な判断ができなくなって、どうしたらよいのかさえ分からなくなってしまいます。

カウンセリングとは、人に話を聞いてもらうことで自分の考えを整理したり、自分で自分の置かれている状況を客観的に理解したり、自分はどうしたらよいか、何ができるか、などを考えられるだけの心のゆとりを取り戻すことです。

カウンセラーとして、臨床心理士が週 2 回カウンセリングをしております。カウンセリングを希望する場合は、まず保健室で予約を取ってください。

精神衛生上及び健康上の問題全般	カウンセリング（精神科医）：湯原 昭（日時は後日掲示でお知らせします） カウンセリング（臨床心理士）：叶 香代（毎週水・金曜日 13:00～16:00） 看護師（保健室常駐の係員）：深谷 美架 ※カウンセリングは、 <u>予約制</u> です。
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. ハラスメントについて

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の防止及びそれらハラスメントに起因する問題が生じた場合に対応するために「ハラスメントの防止等に関する規定」を制定し、学生等の教育研究環境の維持につとめています。

ハラスメントの被害にあった場合は、一人で悩んだりせず、友人など理解ある人や相談員に相談してください。相談員は、相談者のプライバシーを守り、相談内容については、秘密を厳守します。相談することによって、不利益が被ることは一切ありませんので、安心して相談してください。

	生物生産科学専攻	資源生物科学専攻	地域環境科学専攻
セクシュアル・ハラスメント アカデミック・ハラスメント	各専攻の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。		
<p>[セクシュアル・ハラスメントの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職の斡旋や研究指導などを条件に、性的な関係を強要されること <p>[アカデミック・ハラスメントの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究意欲をそがれること ・研究成果やアイデアを流用・盗用されること <p>大学ホームページ http://www.ibaraki.ac.jp/all/sekuhara.htm ハラスメント相談窓口 Tel 029-228-8016</p> <p>◇ 自分が所属する学科以外の相談員に相談してもかまいません。 ◇ 保健室もハラスメントの相談窓口になっています。 ハラスメントやハラスメント相談の詳細については、「茨城大学は、ハラスメントを許しません。」のリーフレットをご覧ください。</p>			

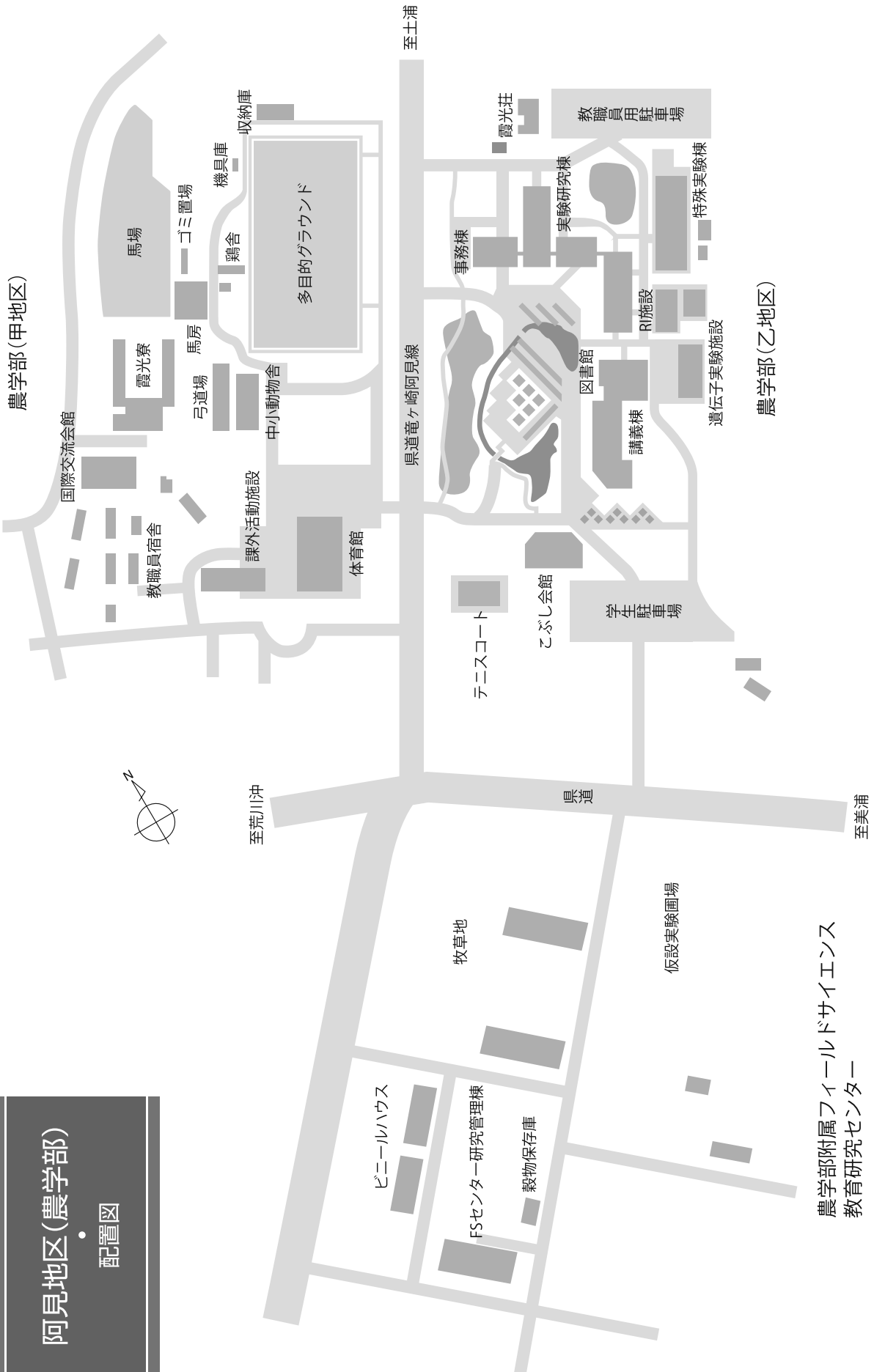
5. 修学および学生生活上の相談

修学上の問題や学生生活上の相談などがあるときは、迷わずに指導教員または下記の委員に相談してください。

相談内容	生物生産科学専攻	資源生物科学専攻	地域環境科学専攻
修学上の問題全般 (教務委員)	各専攻の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。		
学生生活全般 (学生委員)			
<p>【修学上の問題の例】</p> <p>○授業の履修方法(単位のとり方、時間割の組み方等)がわからない。 ○授業が理解できない、ついていけない。研究が進まない。 ○教員免許などの資格のとり方がわからない。 ○留学の仕方がわからない。 ○研究科・専攻が自分に合わないので、進路を再考したい。 ○他の大学院・大学を受験したい。</p> <p>【学生生活について】</p> <p>○大学に行きたくない。留年、休学したい。 ○交通事故にあった、交通事故を起こした。 ○就職活動で困っている。 ○入学料、授業料の免除、奨学金の受け方がわからない。 ○先輩や教員とトラブルがある。</p>			

阿見地区(農学部)

配置図



15. 茨城大学農学研究科 オフィスアワー(平成26年度)

学生からの質問・相談等に応じるため、教員はそれぞれの研究室で待機しています。
この待機している時間を「オフィスアワー」と呼んでいます。
これ以外の時間にも都合の許す範囲で対応します。また、メールでの質問・相談等はいつでも歓迎します。
電話をする場合は、次のとおりダイヤルしてください。

外線電話を利用する場合：029-888-(4桁の内線電話番号)

専攻	専門分野	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
						前学期		後学期	
生物生産科学専攻	植物生産科学	浅木 直美	315	n-asagi@mx.ibaraki.ac.jp	8552	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
		新田 洋司	314	nittay@mx.ibaraki.ac.jp	8551	月~金	16:00 - 17:00	月~金	16:00 - 17:00
		東尾 久雄	317	hhisao@mx.ibaraki.ac.jp	8554	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
		井上 栄一	316	einoue@mx.ibaraki.ac.jp	8553	木	15:00 - 17:00	木	15:00 - 17:00
		阿久津 克己	427	kakutsu@mx.ibaraki.ac.jp	8561	金	13:00 - 14:00	金	13:00 - 14:00
		中島 雅己	429	mnakaji@mx.ibaraki.ac.jp	8563	月	15:00 - 16:00	月	15:00 - 16:00
		後藤 哲雄	422	gotoh@mx.ibaraki.ac.jp	8560	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
		北嶋 康樹	421	ykitashi@mx.ibaraki.ac.jp	8559	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
		久保山 勉	509	kuboyama@mx.ibaraki.ac.jp	8643	金	15:00 - 16:00	金	15:00 - 16:00
	動物生産科学	森 英紀	618	mori@mx.ibaraki.ac.jp	8654	火~金	13:00 - 14:00	火~金	13:00 - 14:00
		中島 弘美	528	hiromi@mx.ibaraki.ac.jp	8573	木金	15:00 - 17:00	木金	15:00 - 17:00
		豊田 淳	624	atoyoda@mx.ibaraki.ac.jp	8584	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
		青柳 陽介	627	yaoyagi@mx.ibaraki.ac.jp	8579	木	12:00 - 13:00	木	12:00 - 13:00
		小川 恭喜	625	yogawa@mx.ibaraki.ac.jp	8571	木	12:30 - 13:30	木	12:30 - 13:30
		安江 健	516	tyasue@mx.ibaraki.ac.jp	8576	金	12:30 - 13:30	月	12:30 - 13:30
		宮口 右二	623	miyaguti@mx.ibaraki.ac.jp	8580	月	11:00 - 13:00	月	11:00 - 13:00
上塚 浩司	520	uetsuka@mx.ibaraki.ac.jp	8539	月	16:00 - 17:00	月	16:00 - 17:00		
資源生物科学専攻	応用生命科学	高原 英成	412	takahara@mx.ibaraki.ac.jp	8681	水	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
		小島 俊雄	409	toshiou@mx.ibaraki.ac.jp	8673	金	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		朝山 宗彦	611	asam@mx.ibaraki.ac.jp	8651	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
		久留主 泰朗	513	krsy@mx.ibaraki.ac.jp	8646	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		西原 宏史	307	hiro@mx.ibaraki.ac.jp	8685	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
		渡部 信義	510	watnb@mx.ibaraki.ac.jp	8644	木	8:00 - 9:00	木	8:00 - 9:00
		大久保 武	620	ohkubo@mx.ibaraki.ac.jp	8656	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		金澤 卓弥	619	kanazawa@mx.ibaraki.ac.jp	8655	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
		白岩 雅和	410	shiraiwa@mx.ibaraki.ac.jp	8680	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		長南 茂	309	chohnan@mx.ibaraki.ac.jp	8672	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		米倉 政実	415	yonekura@mx.ibaraki.ac.jp	8683	火	13:00 - 17:00	火	13:00 - 17:00
		上妻 由章	413	kouzuma@mx.ibaraki.ac.jp	8682	木	13:00 - 15:00	木	13:00 - 15:00
	農業化学生態学	戸嶋 浩明	107	toshima@mx.ibaraki.ac.jp	8662	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
		長谷川 守文	102	morifumi@mx.ibaraki.ac.jp	8660	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
		太田 寛行	207	hohta@mx.ibaraki.ac.jp	8684	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
		成澤 才彦	417	kan-moc@mx.ibaraki.ac.jp	8667	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		鈴木 義人	208	ayoshi@mx.ibaraki.ac.jp	8668	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		西澤 智康	213	nishitom@mx.ibaraki.ac.jp	8687	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00

専攻	専門分野	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
						前学期		後学期	
地域環境科学専攻	地域環境工学	牧山正男	227	makiyama@mx.ibaraki.ac.jp	8597	火	16:20 - 17:30	火	16:20 - 17:30
		黒田久雄	232	kuroda@mx.ibaraki.ac.jp	8602	月火木	16:20 - 17:50	月火木	16:20 - 17:50
		中石克也	125	nakaishi@mx.ibaraki.ac.jp	8599	月	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
		小林久	120	qkoba@mx.ibaraki.ac.jp	8590	水	9:00 - 10:30	金	12:00 - 13:00
		岡山毅	502	tsu-okay@mx.ibaraki.ac.jp	8592	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
		吉田貢士	233	ayoshid@mx.ibaraki.ac.jp	8600	木	16:30 - 17:30	木	16:30 - 17:30
		西脇淳子	229	nishijun@mx.ibaraki.ac.jp	8591	火	16:20 - 17:30	火	16:20 - 17:30
		前田滋哉	231	smaeda@mx.ibaraki.ac.jp	8601	金	16:20 - 17:30	金	16:20 - 17:30
	緑環境システム科学	伊丹一浩	729	itami@mx.ibaraki.ac.jp	8617	金	12:00 - 13:00	金	16:20 - 17:30
		立川雅司	724	mtachi@mx.ibaraki.ac.jp	8615	月	13:30 - 14:30	火	13:30 - 14:40
		木下嗣基	720	kino@mx.ibaraki.ac.jp	8628	水	13:00 - 14:00	水	13:00 - 14:00
		田附明夫	719	tazuke@mx.ibaraki.ac.jp	8627	火金	12:00 - 13:00	火金	12:00 - 13:00
		中川光弘	621	mnaka@mx.ibaraki.ac.jp	8637	木	13:00 - 14:30	木	13:00 - 14:30
		長澤淳	728	junwolf@mx.ibaraki.ac.jp	8638	水	10:00 - 12:00	水	10:00 - 12:00
フィールドサイエンス教育研究センター	内田晋	727	uchida@mx.ibaraki.ac.jp	8613	木金	16:20 - 17:30	木金	16:20 - 17:30	
	福與徳文				水	13:00 - 14:30	水	13:00 - 14:30	
	西川邦夫				月	15:00 - 16:30	月	15:00 - 16:30	
	増富祐司				木	11:00 - 12:00	木	11:00 - 12:00	
	佐藤達雄	FSC 204	sugar@mx.ibaraki.ac.jp	8704	月	11:00 - 12:00	月	11:00 - 12:00	
小松崎将一	FSC 207	komachan@mx.ibaraki.ac.jp	8707	月	13:00 - 14:00	月	13:00 - 14:00		
小針大助	FSC 205	kohari@mx.ibaraki.ac.jp	8705	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00		

(遺伝子実験施設(GRC))

安西弘行	GRC 405	anzai@mx.ibaraki.ac.jp	8742	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
古谷綾子	GRC 406	furutani@mx.ibaraki.ac.jp	8756	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00

(プロジェクト教員)

塩津文隆	313	shiotu@mx.ibaraki.ac.jp	8688	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
------	-----	-------------------------	------	---	---------------	---	---------------

(教育研究振興教員)

坂上伸生	313	nsakagam@mx.ibaraki.ac.jp	8688	金	15:00 - 17:00	金	15:00 - 17:00
------	-----	---------------------------	------	---	---------------	---	---------------

連携大学院客員教員 ※各種相談・連絡については、電子メール又は電話を利用してください。

所属等	住所	担当教員	メールアドレス	研究室電話番号
(独)国立科学博物館 植物研究部	〒305-0005 つくば市天久保 4-1-1	岩科 司	iwashina@kahaku.go.jp	029(853)8434
		秋山 忍	akiyama@kahaku.go.jp	029(853)8972
		國府方 吾郎	gkokubu@kahaku.go.jp	029(853)8423
(独)農業・食品産業 技術総合研究 機構 食品総合研究所	〒305-8642 つくば市観音台 2-1-12	栄養機能ユニット 八巻 幸二	kyamaki@affrc.go.jp	029(838)8083
		発酵細菌ユニット 舟根 和美	funane@affrc.go.jp	029(838)8075
		機能性成分解析ユニット 石川 祐子	yuko@affrc.go.jp	029(838)8055

農学部学務係 : 029(888)8522・8519

提出期限： 4月18日(金)

指 導 教 員 届

平成 年 月 日

茨城大学大学院
農学研究科長 殿

届出者

茨城大学大学院農学研究科

専 攻 _____

学生番号 _____

氏 名 _____ (印)

研究科在学中の指導教員及び論文題目について、下記のとおり届出します。

記

1. 専門分野名 _____

2. 主指導教員名 (1名) _____

副指導教員名 (2名) _____

3. 論文題目

上記のことについて承認します。 主指導教員名 _____ (印)

所属研究室名 _____ 内線電話番号 _____

※学外の場合は、市外局番を含む研究室直通電話番号

茨城大学大学院農学研究科
特別研究計画書

平成 年 月 日 提出

ふりがな 氏 名	⑩	学生番号	
所属専攻 専門分野	専攻		専門分野
研究題目			
研究計画の要旨			
指導計画			
主指導教員	⑩	各教員のサインと押印を得てから提出すること	
副指導教員	⑩	副指導教員	⑩

※提出期限:4月18日(金)

農学研究科 平成26年度授業科目履修計画一覧

平成 年 月 日

指導教員認印		専攻名	専門分野名				学生番号	氏名	
		専攻	専門分野				AM		
区分	No.	授業科目名	開講時期	曜日 講時	単位	コア 科目	担当教員名	指導教員 変更承認印	備考
大学院 共通科目									
農学 基礎科目									
所属 専攻	-	特別研究			10	/			
	-	プレゼンテーション演習			1				
専攻 科目	-	特別演習			3				
上記 以外の 科目									

注①: 大学院共通科目の授業科目から2単位以上かつ農学基礎科目の授業科目から4単位以上合わせて6単位以上、全専攻の授業科目から10単位以上(ただし、所属専門分野の科目から4単位以上を履修すること)、所属専門分野の特別演習と所属専攻のプレゼンテーション演習及び特別研究を必修とし、合計30単位以上を履修すること。

注②: サステイナビリティ学教育プログラム履修者は、履修予定科目の『コア科目欄』に○印を付けて下さい。

指導教員認印		専攻名	専門分野名			学 生 番 号	氏 名		
『茨城大学大学院履修案内』を見ながら記入してください。									
区分	No.	授業科目名	開講時期	曜日 講時	単位	コア 科目	担当教員名	指導教員 変更承認印	備 考
大学院 共通科目	↑		↑					↑	
		【No, 】 第Ⅰ期～第Ⅳ期に分かれています。 開講時期の順番 Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳに 整理して記入してください。						【指導教員変更承認印】 履修予定科目の取止・追加を行う 場合は、指導教員の承認印を得た 後に、学務係に提出してください。	
農学 基礎科目		【No, 】 履修案内(P5～P9)に掲載されてい るNo.を記入してください。							
所属 専攻	-	特別研究			10				
	-	プレゼンテーション演習			1				
所属 専門分野科目	-	特別演習			3				
	<p style="text-align: center;">* 注意 *</p> <p>○履修すべき授業科目について 特別研究に従事するために必要な授業科目が何であるか、シラバスをもとに指導教員によく相談してください。所属する専門分野の授業科目は積極的な履修が望まれます。</p> <p>○科目の取下・追加の手続 履修予定科目の取止・追加がある場合には、履修案内に記入した内容をもとに指導教員の承認を得た後に、学務係に提出してください。提出時は、各自コピーを控えておくこと。</p>								
専攻科目									
上記 以外の 科目									

注①: 大学院共通科目の授業科目から2単位以上かつ農学基礎科目の授業科目から4単位以上合わせて6単位以上、全専攻の授業科目から10単位以上(ただし、所属専門分野の科目から4単位以上を履修すること)、所属専門分野の特別演習と所属専攻のプレゼンテーション演習及び特別研究を必修とし、合計30単位以上を履修すること。

注②: サステナビリティ学教育プログラム履修者は、履修予定科目の『コア科目欄』に○印を付けて下さい。

茨城大学院農学研究科
特別研究経過報告書

平成 年 月 日 提出

ふりがな 氏 名	Ⓜ	学生番号	
所属専攻 専門分野	専攻	専門分野	
研究題目			
研究計画の概要			
主指導教員所見			
主指導教員	Ⓜ	各教員のサインと押印を得てから提出すること	
副指導教員	Ⓜ	副指導教員	Ⓜ

平成 年 月 日

指導教員変更届

茨城大学大学院農学研究科長 殿

届出者

茨城大学大学院農学研究科

_____専攻 _____専門分野

学生番号 _____

氏 名 _____ (印)

指導教員が、下記のとおり変更になりましたのでお届けいたします。

記

1. 主指導教員名 変更前： _____ 変更後： _____

2. 副指導教員名 変更前： _____ 変更後： _____

変更前： _____ 変更後： _____

3. 変更年月日及び変更理由

平成 年 月 日

理由 _____

上記のことについて承認します。

新主指導教員署名 _____ (印)

新副指導教員署名 _____ (印)

_____ (印)

平成 年 月 日

論 文 審 査 願

茨城大学大学院農学研究科長 殿

申請者

茨城大学大学院農学研究科

_____ 専攻 _____ 専門分野

学生番号 _____

氏 名 _____ 印

茨城大学学位規則第4条の規定により、下記書類を添えて修士論文の審査を申請いたします。

記

1. 論 文 3 編

2. 論文要旨 3 編

論文題目 _____

※下欄に主査・副査のサインを得て提出してください。

論文審査 委員氏名	主 査 (主指導教員)		副 査	
			(副指導教員)	

平成 年 月 日

論文題目変更願

茨城大学大学院農学研究科長 殿

申請者

茨城大学大学院農学研究科

_____ 専攻 _____ 専門分野

学生番号 _____

氏 名 _____ (印)

届け出ている

論文題目 _____

変更後の

論文題目 _____

※下欄に主査・副査のサインを得て提出してください。

論文審査 委員氏名	主 査 (主指導教員)		副 査	
			(副指導教員)	

提出期限： 4月25日（金）

平成 年 月 日

地域サステナビリティの実践農学 教育プログラム履修届

専 攻： _____

学 生 番 号： _____

学 生 氏 名： _____ (印)

携 帯 電 話 番 号： _____

専攻における課程修了要件を履修することに加え、「地域サステナビリティの実践農学教育」プログラムを履修することについて、指導教員の承認が得られましたので、下記のとおり申し込みいたします。

記

授 業 科 目	単 位	履修予定年次に○		備 考
		1 年 次	2 年 次	
地域サステナビリティ農学概論	1			プログラム必修科目 大学院共通科目としては、 認定しません。
アジア農業論	1			プログラム必修科目 カリキュラム修了要件外
熱帯農業フィールド実習 <small>※インドネシアでの実習有り</small>	1			プログラム必修科目 カリキュラム修了要件外
グループ課題演習	1			プログラム必修科目 カリキュラム修了要件外

「地域サステナビリティの実践農学教育プログラム」を履修することについて、上記のとおり学生より申出がありましたので、承認します。

指 導 教 員 名： _____ (印)

注意 履修希望者は、指導教員と相談し了解を得た上で、学務係に提出すること。

提出期限： 4月25日（金）

平成 年 月 日

茨城大学農学研究科サステナビリティ学
教育プログラム履修届

専攻： _____
 学生番号： _____
 学生氏名： _____ (印)
 携帯電話番号： _____

「サステナビリティ学教育プログラム修了認定証」を修得するため、以下の授業科目を履修する予定ですので、届け出ます。

サステナビリティ学教育プログラム関係授業科目一覧（平成25年4月1日時点）

科目群	授業科目名	単位数	開講時期・曜日講時 等	備考	履修予定年次に○		
					1年次	2年次	
コア科目 (6単位以上)	基盤科目	サステナビリティ学最前線	2	前 集中 (7月)	【必修】 SSC 共通科目		
		地球環境システム論 I	1	前 月 1 (5-7月)	共通科目		
		持続社会システム論 I	1	後 月 1 (10-12月)	共通科目		
		人間システム基礎論 I	1	後 水 1 (10-11月)	共通科目		
		地球環境システム論 II	1	後 金 2 (10-12月)	共通科目		
		持続社会システム論 II	1	前 金 2 (4-6月)	共通科目		
	人間システム基礎論 II	1	前 月 4 (5-7月)	共通科目			
	演習科目	ファンリテーション能力開発演習 I	1	前 集中 (6月)	他研究科		
		ファンリテーション能力開発演習 II	1	前 集中 (6月)	他研究科		
		国内実践教育演習 <small>※茨城県霞ヶ浦での実習有り</small>	2	前 集中 (9月)	他研究科		
		国際実践教育演習 <small>※タイ プーケットでの実習有り</small>	2	前 集中 (9月)	他研究科		
		サステナビリティ学インターンシップ	2	関係教員	他研究科		
4 専攻農学 単位以上 研究科	①			専攻科目			
	②						
	③						
	④						

上記表のうち、備考欄に「他大学」、「他研究科」とあるものは、農学研究科履修案内4. カリキュラム修了の要件に記載の「他の研究科及び他の大学院の授業科目を10単位を限度に専攻科目の授業科目に充てる」ことができます。ただし、所属専門分野科目（4単位）に充てることはできません。

大学院生本人と研究計画、履修計画をよく相談し、本学「サステナビリティ学教育プログラム」の趣旨と上記の履修を了解しています。

平成 年 月 日 職 名： _____

指導教員名： _____ (印)

注意 履修希望者は、指導教員と相談し了解を得た上で、学務係に提出すること。

提出期限：4月25日（金）

平成 年 月 日

ダブルディグリープログラム履修願

茨城大学大学院
農学研究科長 殿

願出者

茨城大学大学院農学研究科

専攻 _____

学生番号 _____

氏名 _____ 印

下記の期間中、受入大学においてダブルディグリープログラムを履修したいので、ご承認願います。

記

1. 受入大学 _____

2. 派遣期間 平成____年____月 ~ 平成____年____月

上記学生が受入大学において、ダブルディグリープログラムを履修することを承認いたします。

主指導教員名 _____ 印

茨城大学大学院農学研究科

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

TEL : 029-888-8519/8522

FAX : 029-888-8545

H P : <http://www.agr.ibaraki.ac.jp/>